

# イングリッシュキャンプ

## 1. 事業の概要

### ○ 事業の趣旨

外国語を用いた体験活動を通して、異文化・言語に体験的にふれあい、外国語について学ぶ意欲を高めるとともに、外国人とコミュニケーションを図る素養を育成する。

### ○ 実施期間

①令和2年11月 7日（土）～ 8日（日） 1泊2日

②令和2年11月14日（土）～15日（日） 1泊2日

### ○ 対象者・参加者数

①小学3・4年生 20名

②小学3・4年生 19名

### ○ 指導者等

国立室戸青少年自然の家職員2名

高知県在住の外国語指導助手及び国際交流員

①アメリカ2名、イギリス2名、オーストラリア1名

②アメリカ2名、オーストラリア1名、シンガポール1名、フィリピン1名

### ○ 活動プログラム

	11月7日（土）・14日（土）		11月8日（日）・15日（日）
9:30	高知方面迎え出発	6:00	起床
10:00	徳島方面迎え出発	7:45	朝食
12:00	自然の家到着	9:00	ミッションゲーム
12:15	昼食		工作活動
13:45	開講式・入所オリエンテーション	12:00	昼食
14:00	自己紹介	13:15	閉講式
	フィールドフォトビンゴ	13:30	自然の家発
17:15	夕食・自由時間	15:30	徳島方面最終下車
18:30	キャンプファイア	16:30	高知方面最終下車
	※雨天時：キャンドルファイア		
	・外国人講師と一緒に歌を歌ったり、ダンスを踊ったりする。		
20:00	入浴		
22:00	就寝		

## 2. 活動の様子

### <1日目>

今年度の「イングリッシュキャンプ」では、第1回・第2回の定員をそれぞれ20名とし、高知・徳島方面の小学3年生から4年生を対象に募集を行った。また、各回に高知県在住の外国語指導助手及び国際交流員の方を講師として5名ずつ招き、イングリッシュキャンプの活動を行った。

開講式後は、4つのグループに分かれて、アイスブレイクの活動を行った。まず初めに、外国人講師から名前や出身国、好きな食べ物について英語で自己紹介を行った。子ども達は、外国人講師が話す英語を一生懸命聞き、理解しようとしていた。また、外国人講師の英語を参考にして、自分なりに自己紹介をしようとする姿が見られた。その後、名前や好きな食べ物を英語で記載したカードを作成し、グループ内で交換した。交換する際には、英語を交えながらコミュニケーションを取ることによって、楽しみながら学習することができた。

休憩後は、グループに分かれてフィールドフォトビンゴの活動を行った。活動中は、知っている英語を使ったり、身振り手振りを使ったりすることで、何とか外国人講師とコミュニケーションを取ろうとする姿が多く見られた。

夜間の活動では、第1回は雨天のためキャンドルファイア、第2回は晴天のためキャンプファイアを行った。外国人講師が準備したレクリエーションやダンスを体験する中で、楽しみながら英語に慣れ親しむとともに、自ら進んで多くの人と関わることができていた。



### <2日目>

2日目は、最後の活動として、ミッションゲームと流木クラフトを行った。ミッションゲームでは、4つのグループに分かれ、外国人講師と自然の家の施設を回り、6つのミッションに挑んだ。

今年度は、ソーシャルディスタンス確保のため、直接的な触れ合いを伴わないミッションを作成した。外国人講師やグループの仲間と協力してミッションに挑む中で、積極的に英語を用いてコミュニケーションを取ったり、ミッション達成を共に喜び合ったりする姿が見られた。ミッションゲーム終了後は、流木クラフトの活動を行った。活動中は、子ども達から外国人講師へ抵抗なく話し

かけたり、クラフトのつくり方を説明したりする姿が見られた。

2日間の活動を通して、体験的に英語を学び、自ら進んで外国人講師と関わろうとする態度を身に付けることができた。



### 3. 事業の成果と課題

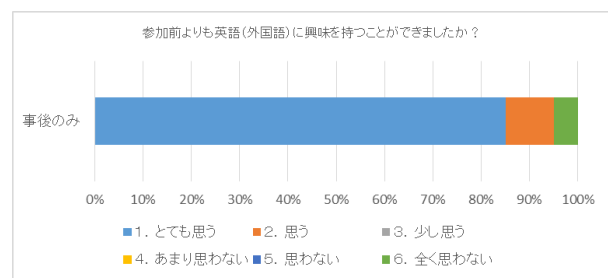
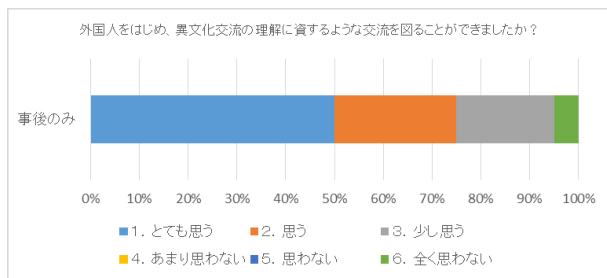
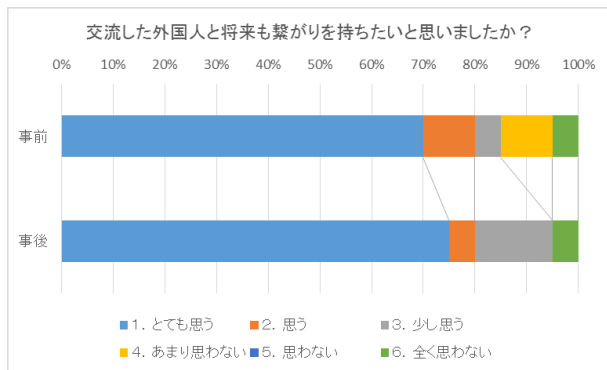
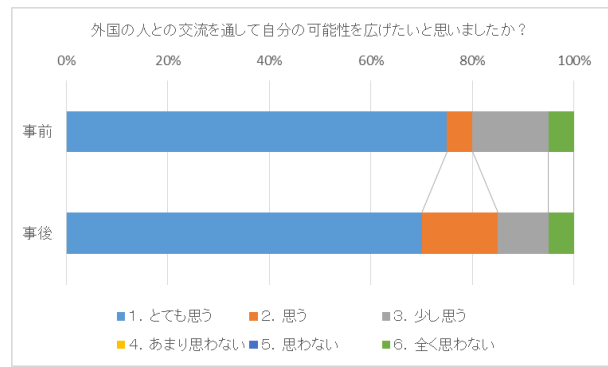
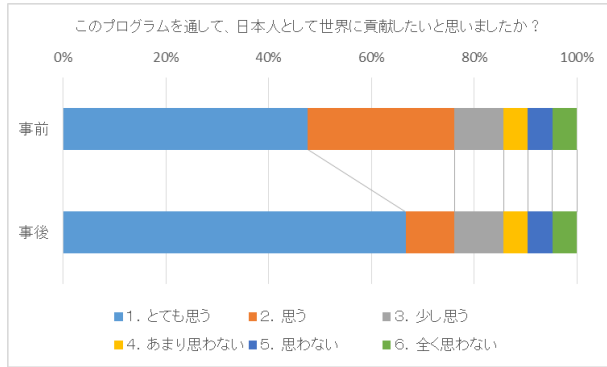
#### ○ 参加者の感想

- ・ 知らなかった単語や英語で、自分の好きな食べ物を言えたのがうれしかったです。
- ・ キャンプファイアのダンスやレクリエーションが面白かったです。またやりたいです。
- ・ 外国の先生と英語で自分のことについて話したり、どんな気持ちかを話したりしたのが楽しかったです。
- ・ 外国人の人たちと交流することがあまりないので、イングリッシュキャンプに来てよかったです。
- ・ フィールドフォトビンゴの活動がとても楽しかったです。外国人の先生と自然に話しながら交流することができてよかったです。また、この事業に参加したいと思いました。これからこのようなイベントが増えるととてもうれしいです。
- ・ 参加する前よりも、英語の発音や言い方がうまくなりました。また、来年も来てみたいです。そして、どんどん英語を学んで、いろんな国に行って話してみたいです。

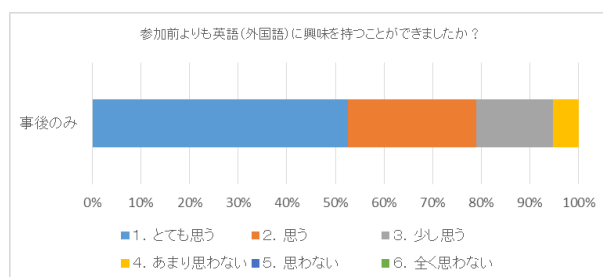
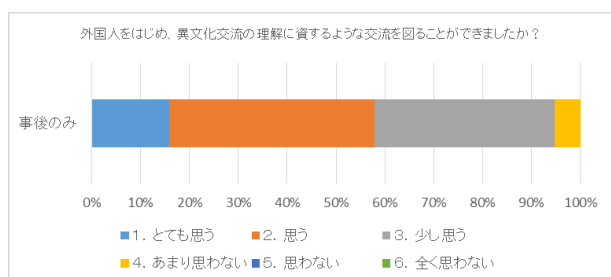
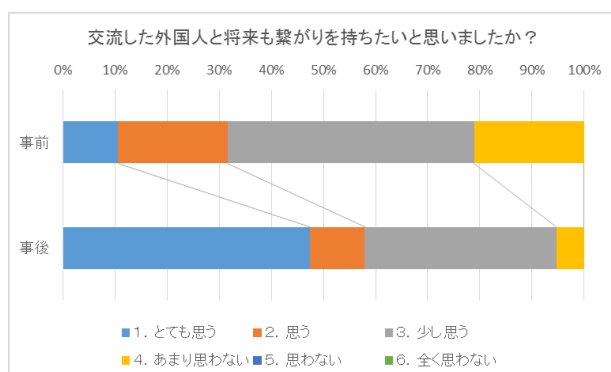
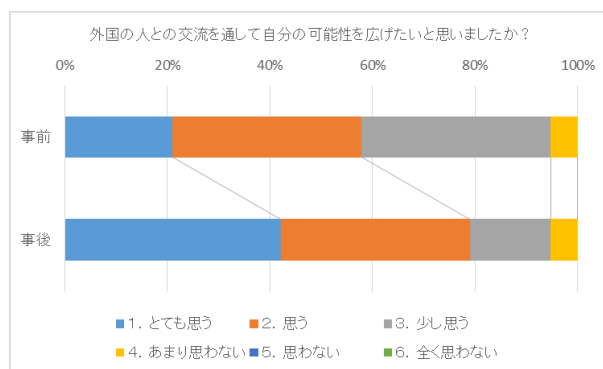
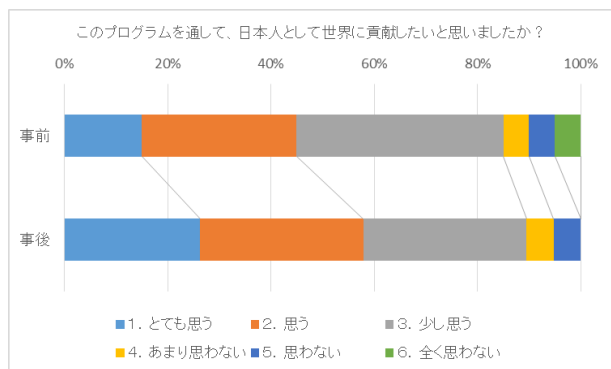
#### ○ 事業の成果

- ・ フィールドフォトビンゴやミッションゲーム、キャンプファイアといった活動を通して、積極的に外国人講師と関わり、自ら進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することができた。
- ・ 各グループに外国人講師を1名ずつ配置することで、英語に触れる機会を増やし、充実した活動内容にすることができた。
- ・ 活動中は、十分に距離を取り、接触の伴わないレクリエーションやゲームを行うことで、新型コロナウイルス感染拡大のリスクを軽減することができた。

## <第1回 イングリッシュキャンプ>



## <第2回 イングリッシュキャンプ>



### ○ 事業の課題

- ・ 外国語指導助手や国際交流員を講師として招く場合、事前に十分な打ち合わせの時間を確保することが難しいと感じた。そのため、来年度以降、新型コロナウイルスが収束し、NICEと連携ができるようであれば、以前と同様に海外の外国人ボランティアを2週間程度受け入れることで、事前打ち合わせやリハーサルの時間を十分確保できるようにしたい。
- ・ 新型コロナウイルスの状況に応じて、感染防止対策を行い、リスクを軽減していく必要がある。また、レクリエーションやゲームについても大声を出さず、接触の伴わない活動を中心に計画していく必要がある。